江尾のおしゃごっさん

昭和五十九年十二月五日号

江尾地区の中ほどに、土地の人々が「おしゃごっさん」と呼んでいる小さなほこらがあります。「おしゃごっさん」とは、昔、田んぼの広さをはかるために使った間竿をここに納めて祭ったと言われています。

昔はどの村にも必ず一ヵ所はあったと思われますが、今ではほとんど残っていません。

語源はお尺もち

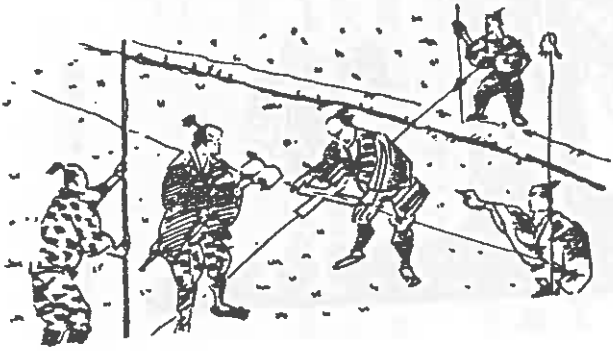
おしゃごっさんは、おしゃもちさんがおしゃごっさんになまったもので、その語源はお尺もち、おしゃもちと言われています。

「お尺」とは、昔、年貢を取り立てるために土地を測量（検地）したとき使った間竿や間縄のことを「お尺」と言ったので、その間竿を持って歩いたからおしゃもちと言ったようです。江戸時代の検地は、大変厳しく検地役

おしゃごっさん

人を使って厳重な調査をしました。少しでも隠し田んぼでもあると、重い罰を受けたり、はかり間違いがあったりすると、ときには首を切られたりすることがありました。そんなことから、村中でお尺を大切にし、検地が無事済んだあと、間竿に感謝の意を込めて、神に祭ったと言います。

毎年必ず供養を

栗田ろくさん（江尾）

土地の人たちから「しゃくし」と呼ばれ、代々おしゃごつさんの供養をしている栗田家。栗田家のおばあちゃんろくさんは、「いつからうちで供養し始めただかしらないけんど、祭ってやれば家が栄えると言い伝えがあるもんで、毎年、正月、五月、九月には必ず供養してるよ」と語ってくれました。